

第3章 基本理念と基本目標



1人1台タブレット端末を活用した授業

第3章 基本理念と基本目標

1 基本理念 ～目指すべき人間像～

第1期大綱では、下記の2つを基本理念として掲げ、その実現に向けて施策を推進してきました。この基本理念、目指すべき人間像は、これからの「Society5.0時代」、「予測困難な時代」の中においても変わらないものであり一層重要であると考えられることから、第2期大綱においても継承することとします。

(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち

グローバル化や情報化、少子・高齢化が急速に進むなど、社会・経済が激しく変化する時代に生まれた子どもたちが、これからの時代を自らの力で力強く生き抜き、自らの夢に向かって羽ばたけるようにするためには、知・徳・体の調和のとれた生きる力を育むことが必要です。

<知・徳・体の育成すべき力>

- 知：基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲
- 徳：社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性
- 体：生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣

こうした知・徳・体の調和がとれた、自らの人生を切り拓き主体的に生きる力を、家庭の保護者や地域、学校、市町村教育委員会、県教育委員会等が、それぞれの役割や責任を意識しながら力をあわせ、社会全体で子どもたちに身につけさせていかなければなりません。

このため、1つ目の基本理念を「**学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち**」の育成とします。

(2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材

我が国では、先のみえない変化の激しい時代の中で、課題に挑戦し、未来を切り拓く人材が求められています。

特に少子・高齢化が著しい本県が今後も活力を維持・向上していくためには、郷土への愛着と誇りを大切にしながら、グローバルな視点を持ち、高い志を掲げ、産業・経済や地域福祉、さらには、文化、コミュニティなど多くの分野で地域の将来を担う人材が求められています。

このため、2つ目の基本理念を「**郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材**」の育成とします。

2 基本目標（知・徳・体）

基本理念の実現に向けた第4章の「基本方針と喫緊の課題の解決に向けた横断的取組」に基づく取組の基本目標として下記の目標を設定するとともに、その達成に向けた取組の進捗や施策の成果・課題を把握するため、それぞれの目標に測定指標を設定し、P D C Aサイクルに基づく進捗管理を徹底します。

(1) 知の分野の目標

子どもたちが社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる、基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む

<測定指標>

①小・中学校

●全国学力・学習状況調査において、

- ・小学校の学力は全国上位を維持し、さらに上位を目指す。中学校の学力は全国平均以上に引き上げる

※ R 4 年度全国学力・学習状況調査結果（数値は全国平均正答率との差）

小学校：国語 +0.7 算数 +2.5 理科 -0.3

中学校：国語 -1.9 数学 -5.0 理科 -2.8

- ・小・中学校ともに、全ての評価の観点で正答率を全国平均以上とする

※ R 3、R 4 年度全国学力・学習状況調査結果

◇小学校（第6学年）

評価の観点		R3年度	R4年度
国語	知識・技能	73.9 (+5.6)	72.9 (+2.4)
	思考・判断・表現	61.6 (-0.5)	61.4 (-0.6)
算数	知識・技能	74.8 (+0.7)	70.4 (+2.2)
	思考・判断・表現	65.7 (+0.6)	59.6 (+2.9)
理科	知識・技能		62.0 (-0.5)
	思考・判断・表現		63.5 (-0.2)

◇中学校（第3学年）

評価の観点		R3年度
国語	国語への関心・意欲・態度	56.8 (+0.8)
	話す・聞く能力	79.3 (-0.5)
	書く能力	56.9 (-0.2)
	読む能力	47.9 (-0.6)
	言語についての知識・理解・技能	72.4 (-2.7)
数学	数学的な見方や考え方	38.5 (-2.6)
	数学的な技能	74.0 (-3.7)
	数量や図形などについての知識・理解	63.6 (-2.0)

評価の観点		R4年度
国語	知識・技能	67.4 (-1.6)
	思考・判断・表現	60.7 (-1.6)
数学	知識・技能	52.9 (-7.0)
	思考・判断・表現	34.8 (-1.4)
理科	知識・技能	42.9 (-3.2)
	思考・判断・表現	48.3 (-2.7)

() は全国平均正答率との差、R4年度「理科」実施

※ R 4 年度の中学校の評価の観点は、「知識・技能」と「思考・判断・表現」に変更

②高等学校

●高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を10%以下とする

※R4年度学力定着把握検査結果（高校2年生1月）：21.7%
（県立高等学校のうち進学に重点を置く学校を除いた29校の平均）

●高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする

※R3年度卒業生に占める進路未定者の割合：5.0%

（2）徳の分野の目標

社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む

<測定指標>

●児童生徒質問紙調査における道徳性等（自尊感情、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神など）に関する項目の肯定的回答の割合を向上させる

※R4年度全国学力・学習状況調査結果 肯定的な回答をした児童生徒の割合（（ ）は全国平均との差）

「自分には、よいところがあると思う」： 小学校 78.8%（-0.5）中学校 80.9%（+2.4）

「将来の夢や目標を持っている」： 小学校 78.1%（-1.7）中学校 71.3%（+4.0）

「人が困っているときは、進んで助けている」

： 小学校 88.7%（-0.2）中学校 88.4%（±0）

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」

： 小学校 52.6%（+1.3）中学校 45.1%（+4.4）

●生徒指導上の諸課題（不登校、中途退学）の状況を全国平均まで改善させる

※R3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

・1,000人あたり不登校児童生徒数：小中 31.2人（全国 25.7人）

高校 18.0人（全国 16.9人）

・中途退学率：1.5%（全国 1.2%）

※不登校については、不登校児童生徒が抜かりなく学校内外の関係機関等（医療、福祉、教育支援センター、心の教育センター、SC・SSWなど）による個に応じた必要な支援を受けられるよう、「横断的取組1 不登校への総合的な対応」の指標を設定（P.102）

(3) 体の分野の目標

生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣を身につけさせる

<測定指標>

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、
・小・中学校の体力合計点は継続的に全国平均を上回る

※R4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（数値はT得点（全国平均=50））

小学校：男子 50.5 女子 50.6

中学校：男子 50.2 女子 50.7

- ・総合評価でDE群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値から3ポイント以上減少させる

※総合評価：体力テスト合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定した体力の総合評価

※過去4年間の平均値：H28～R元年度における高知県のDE群の割合の平均値

小学校：R4 男子 34.1%（+2.6） 女子 28.4%（+4.0）

中学校：R4 男子 32.3%（+3.7） 女子 16.6%（+2.4）

<（ ）は、県の過去4年間の平均値との差>